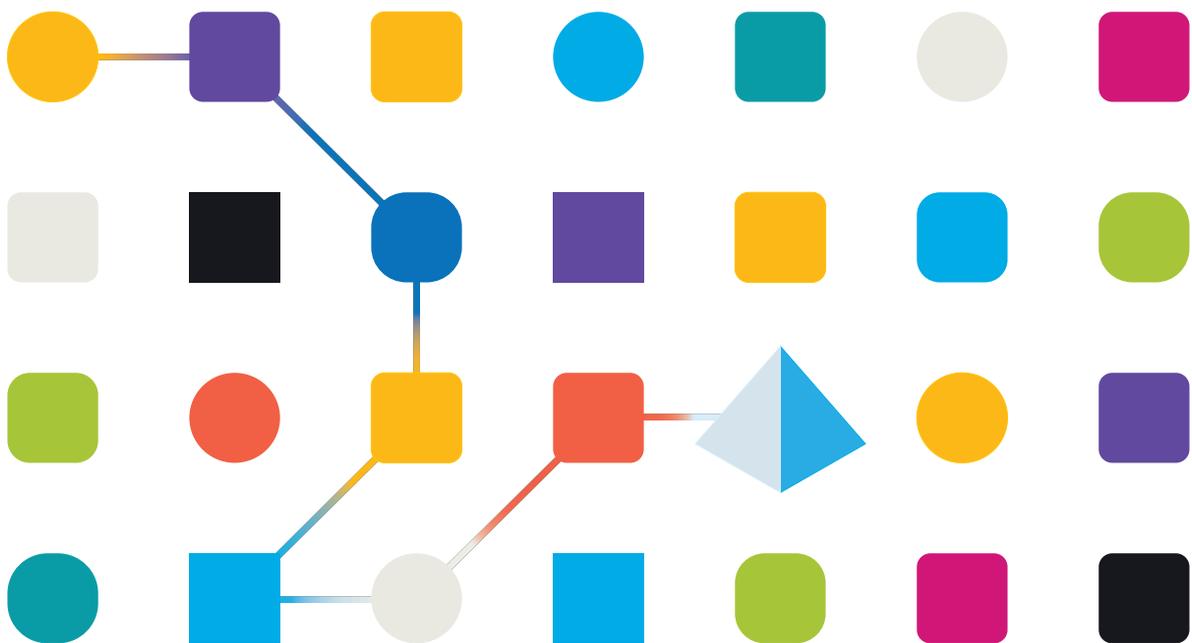


blueprism[®]

Hub 4.6

のサイレントインストールガイド

Document Revision: 1.0



商標および著作権

本ガイドに記載されている情報は、Blue Prism Limitedおよび/またはその関係会社が独占的に所有する機密情報であり、権限を与えられたBlue Prism担当者の書面による同意なしに、第三者に開示してはなりません。本文書のいかなる部分も、複写機などの電子的あるいは機械的な形式や手段を問わず、Blue Prism Limitedまたはその関係会社の書面による許可を得ることなく、複製または送信してはなりません。

© Blue Prism Limited 2001 – 2022

Blue Prism、Blue Prismのロゴ、およびPrismデバイスは、Blue Prism Limitedおよびその関係会社の商標または登録商標です。All Rights Reserved.

その他のすべての商標は本文書によって確認され、各所有者のために使用されています。

Blue Prism Limitedおよびその関係会社は、本ガイドで言及する外部Webサイトの内容に関して、責任を負いません。

Blue Prism Limited, 2 Cinnamon Park, Crab Lane, Warrington, WA2 0XP, United Kingdom。
英国で登録:登録番号4260035。電話:+44 370 879 3000。Web:www.blueprism.com

内容

サイレントインストール	4
対象者	4
前提条件	4
Silent-Install-Hub.ps1スクリプトファイルを編集する	5
デフォルトのHubインストール先を変更する(オプション)	6
SQL認証モードを変更する(オプション)	7
ホスト名を編集する(オプション)	7
PowerShellでSSL証明書を取得する	8
Microsoft管理コンソールでSSL証明書を取得する	8
チェックボックスを選択および選択解除する	9
Blue Prism Decisionをスキップする(オプション)	9
RabbitMQをチェックする	9
顧客IDを確認する	9
パラメーターを組み合わせる	9
サイレントインストールを開始する	10
サイレントアンインストール	11
Blue Prism Hubのサイレントインストールプロセス外でDecision APIを設定する	12

サイレントインストール

サイレントインストールプロセスにおいて、Hubインストールウィザードを使用せずにHubをインストールするには、PowerShellのSilent-Install-Hub-4.6.ps1スクリプトの編集と実行が必要です。

Silent-Install-Hub-4.6.ps1スクリプトは、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードできます。

Hubインストールウィザードを使用して通常のインストールを実行するには、「」「[Webサーバーのインストールと構成](#)」を参照してください。

 Hubインストールウィザードを使用する場合、ウィザードのボタンをクリックして、テキストフィールドに入力した情報を検証する機会があります。サイレントインストールの実行時に検証は行われません。間違ったパラメータを入力すると、Webサーバーが破損する可能性があります。スクリプトをバックアップとして実行する前に、マシンのスナップショットを作成することをお勧めします。

対象者

このガイドは、次の分野のITプロフェッショナルを対象としています。

- スクリプトの編集と実行
- PowerShellの使用
- デバッグしています

前提条件

Blue Prism Hubの通常のインストールに必要な[前提条件](#)はすべて、Blue Prism Hubのサイレントインストールにも適用されます。

必要なソフトウェアのインストールについては、「」「[Webサーバーのインストールと構成](#)」を参照してください。

Silent-Install-Hub.ps1スクリプトファイルを編集する

次のセクションでは、Blue Prism Hubのサイレントインストール用にSilent-Install-Hub-4.6.ps1スクリプトファイルを準備する方法について説明します。

Silent-Install-Hub-4.6.ps1は、メモ帳やVisual Studio Codeなどのエディターで開いて編集できます。ファイル内のコードの各セクションには、Hubインストールウィザードの画面に対応する情報が含まれています。

Silent-Install-Hub-4.6.ps1ファイルのほとんどのパラメーターは、入力や編集が簡単です。各パラメーターには名前と値があり、次の形式で表示されます。

```
$msi_params = $msi_params + "NAME=`"Value`" "
```

パラメーターを編集するには、値を上書きします。いずれのパラメーター名も変更しないことをお勧めします。

 変更を加えた後は、必ずSilent-Install-Hub-4.6.ps1を保存してください。

デフォルトのHubインストール先を変更する(オプション)

Silent-Install-Hub.ps1スクリプトのデフォルトの場所をチェックし、新しい場所に変更するには、次の手順を実行します。

1. Silent-Install-Hub-4.6.ps1ファイルをエディターで開きます。
2. スクリプトファイルが開きます。エディターによって表示方法が異なります。

```
Silent-Install-Hub-4.5.ps1* X
1 #Requires -RunAsAdministrator
2 param(
3     [int]
4     [Parameter(
5         Mandatory = $true
6     )]
7     $Version,
8     [switch]$SkipDecision,
9     [switch]$Uninstall
10 )
11 if (-not $Uninstall) {
12     $msi_params = ""
13
14     # $msi_params = $msi_params + "INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Blue Prism" "
15
16     $msi_params = $msi_params + "RMQ_USERNAME="rabbituser" "
17     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PASSWORD="rabbitpass" "
18     $msi_params = $msi_params + "RMQ_HOST_NAME="localhost" "
19     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PORT="5672" "
20     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PROTOCOL="amqp" "
21     $msi_params = $msi_params + "RMQ_VIRTUAL_HOST="" "
22     $msi_params = $msi_params + "RMQ_CERTIFICATE_ID="" "
23
24     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_SERVER="" "
25     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_DATABASE_NAME="ImDB45" "
26     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_AUTH_MODE="S" " # T
27     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_USERNAME="sa" "
28     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_PASSWORD="Pass1234Qq" "
```

Hubのインストール先フォルダーには、デフォルトの場所 (C:\Program Files (x86)\Blue Prism) が表示されます。

```
Silent-Install-Hub-4.5.ps1* X
1 #Requires -RunAsAdministrator
2 param(
3     [int]
4     [Parameter(
5         Mandatory = $true
6     )]
7     $Version,
8     [switch]$SkipDecision,
9     [switch]$Uninstall
10 )
11 if (-not $Uninstall) {
12     $msi_params = ""
13
14     # $msi_params = $msi_params + "INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Blue Prism" "
15
16     $msi_params = $msi_params + "RMQ_USERNAME="rabbituser" "
17     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PASSWORD="rabbitpass" "
18     $msi_params = $msi_params + "RMQ_HOST_NAME="localhost" "
19     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PORT="5672" "
20     $msi_params = $msi_params + "RMQ_PROTOCOL="amqp" "
21     $msi_params = $msi_params + "RMQ_VIRTUAL_HOST="" "
22     $msi_params = $msi_params + "RMQ_CERTIFICATE_ID="" "
23
24     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_SERVER="" "
25     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_DATABASE_NAME="ImDB45" "
26     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_AUTH_MODE="S" " # T
27     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_USERNAME="sa" "
28     $msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_PASSWORD="Pass1234Qq" "
```

3. 別の場所にHubをインストールする場合は、上の画像に表示されているファイルパスを編集します。

SQL認証モードを変更する(オプション)

認証モードは、次のデータベースで編集できます。

- IMS(IMS_SQL_SERVER)
- Hub(HUB_SQL_SERVER)
- Audit(AUDIT_SQL_SERVER)
- ファイル(FILE_SQL_SERVER)
- 通知センター(NOTIFICATION_CENTER_SQL_SERVER)
- License Manager(LICENSE_MANAGER_SQL_SERVER)
- Email Service(EMAIL_SERVICE_SQL_SERVER)

各データベースセクションは、Hubインストールウィザードの画面に対応しています。

以下の手順では、IMSデータベースを例として使用します(IMSはAuthentication Serverのレガシー名です)。

次のコード行は、Hubインストールウィザードの [MS SQL接続を構成] 画面の **認証モード** パネルに対応しています。

```
$msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_SERVER=`.`" "  
$msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_DATABASE_NAME=`TmsDB45`" "  
$msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_AUTH_MODE=`S`" "# T"  
$msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_USERNAME=`sa`" "  
$msi_params = $msi_params + "IMS_SQL_PASSWORD=`Pass1234Qq`" "
```

- 認証モードを**信頼済み(Windows認証)**に設定するには、値をTで上書きします。



IMS_SQL_AUTH_MODEの値にTを入力する場合は、IMS_SQL_USERNAMEおよびIMS_SQL_PASSWORDの値を削除します。

- 認証モードを**ユーザー名とパスワードを指定(SQL認証)**に設定するには、値をSで上書きします。



IMS_SQL_AUTH_MODEの値にSを入力する場合は、IMS_SQL_USERNAMEおよびIMS_SQL_PASSWORDの値を入力します。

ホスト名を編集する(オプション)

ホスト名は、次のWebサイトで編集できます。

- IMS(IMS_SITE_NAME)
- Hub(HUB_SITE_NAME)
- Audit(AUDIT_SITE_NAME)
- Email Service(EMAIL_SERVICE_SITE_NAME)
- ファイル(FILE_SITE_NAME)
- SignalR(SIGNALR_SITE_NAME)
- License Manager(LICENSE_MANAGER_SITE_NAME)
- 通知センター(NOTIFICATION_CENTER_SITE_NAME)

各Webサイトのセクションは、Hubインストールウィザードの画面に対応しています。

以下の手順では、IMS Webサイトを例として使用します(IMSはAuthentication Serverのレガシー名です)。

IMS_HOSTNAMEは、Hubインストールウィザードの **Authentication Server IIS設定** 画面に対応します。

```
$msi_params = $msi_params + "TMS_SITE_NAME='Blue Prism - TMS' "
$msi_params = $msi_params + "TMS_HOSTNAME='ims.local' "
$msi_params = $msi_params + "TMS_HTTP_PORT='443' "
$msi_params = $msi_params + "TMS_SSL_CERTIFICATE_ID='FD8535F0A0982F68594B4A9' "
$msi_params = $msi_params + "TMS_START_ON_INSTALL='true' "
```

ホスト名を確認または編集するには:

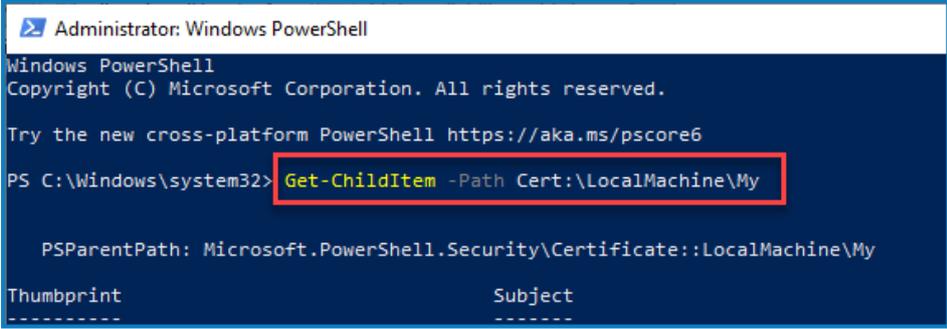
1. IMS_HOSTNAME値がすべて小文字であることを確認します。
2. 新しいホスト名でIMS_HOSTNAME値を上書きできます。新しいホスト名で上書きする場合は、必ず名前を小文字で入力します。

PowerShellでSSL証明書を取得する

PowerShellは、特定のストア内のすべての証明書のサムプリントをすばやく表示する方法として使用できます。

1. 管理者としてPowerShellを開きます。
2. PS C:\Windows\system32>の後に次の行を入力します。

```
Get-ChildItem -Path Cert:\LocalMachine\My
```



```
Administrator: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

Try the new cross-platform PowerShell https://aka.ms/powershell

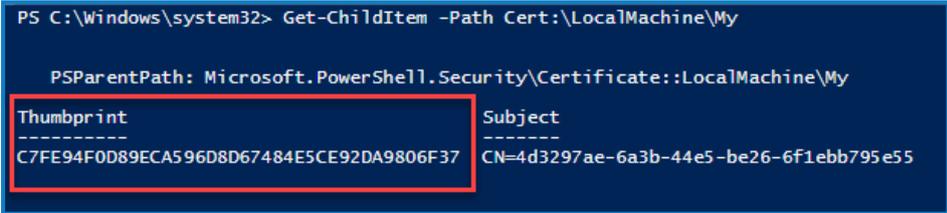
PS C:\Windows\system32> Get-ChildItem -Path Cert:\LocalMachine\My

PSParentPath: Microsoft.PowerShell.Security\Certificate::LocalMachine\My

Thumbprint                               Subject
-----
-----
```

3. Enterキーを押します。

証明書のサムプリントは、スペースなしの大文字で表示されます。



```
PS C:\Windows\system32> Get-ChildItem -Path Cert:\LocalMachine\My

PSParentPath: Microsoft.PowerShell.Security\Certificate::LocalMachine\My

Thumbprint                               Subject
-----
-----
C7FE94F0D89ECA596D8D67484E5CE92DA9806F37  CN=4d3297ae-6a3b-44e5-be26-6f1ebb795e55
```

Microsoft管理コンソールでSSL証明書を取得する

証明書を必要とするHubインストールウィザードのどの画面でもドロップダウンリストが表示され、そこから選択できます。サイレントインストールを実行する場合、証明書はサムネイル形式で手動で入力する必要があります。

証明書にアクセスするには:

1. Windowsの検索バーに「MMC」と入力し、MMCの [実行] コマンドを選択します。
Microsoft管理コンソールが開きます。
2. [ファイル] をクリックし、次に [スナップインの追加と削除] をクリックします。
3. [スナップインを追加または削除] ダイアログで、[証明書] を選択し、[追加] をクリックします。
4. [証明書] のスナップインダイアログで、[コンピューターアカウント] をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [終了] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

- ツリー表示の **証明書**]をクリックし、**[パーソナル] > 証明書]**フォルダーまたは **[Webホスティング] > 証明書]**フォルダーのいずれかを選択して、メインペインで適切な証明書を選択します(**[フレンドリ名]**列を参照)。
- 証明書をダブルクリックして、**証明書]**ダイアログの **詳細]**を選択し、次に **サンプリント]**を選択します。

 スクリプトは、証明書サンプリントが大文字で、スペースが含まれていない場合にのみ機能します。スクリプトファイルに貼り付ける前に、テキストエディターを使用して大文字に変更し、スペースを削除します。

- サンプリントをコピーし、**Silent-Install-Hub-4.6.ps1**ファイルの関連する証明書の値に貼り付けます。

チェックボックスを選択および選択解除する

チェックボックスに対応する値には、「true」または「false」の値を指定できます。

Blue Prism Decisionをスキップする(オプション)

Blue Prism Decisionのインストールをスキップするには、BLUE_PRISM_DECISION_SKIPPEDの値を「true」に設定します。

RabbitMQをチェックする

RMQパラメーターに正しい値が含まれていることを確認します。

```
$msi_params = $msi_params + "RMQ_USERNAME=`"rabbituser`" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_PASSWORD=`"rabbitpass`" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_HOST_NAME=`"localhost`" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_PORT=`"5672`" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_PROTOCOL=`"amqp`" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_VIRTUAL_HOST=`"``" "  
$msi_params = $msi_params + "RMQ_CERTIFICATE_ID=`"``" "
```

顧客IDを確認する

HUB_CUSTOMER_IDのパラメーターに正しい値が含まれていることを確認します。この値が正しくない場合、手動で再構成しない限り、プラグインのライセンスを取得することはできません。

パラメーターを組み合わせる

次のコードを使用して、すべてのパラメーターを1つの文字列に結合し、インストールできます。

```
$silentArgs = "/I `[filepath to Blue Prism Hub.msi]$Version\Blue Prism Hub.msi`" /qn /norestart  
/l*v `C:[filepath to log file]logs_hub_$Version.log`" $msi_params"$process = Start-Process  
msiexec.exe -Wait -ArgumentList $silentArgs -PassThru  
Write-Host $process.ExitCode
```

 Blue Prism Hub.msiファイルへのファイルパスが正しいことを確認し、正しくない場合は更新します。

サイレントインストールを開始する

 変更を加えた後は、必ずSilent-Install-Hub-4.6.ps1を保存してください。

インストールを開始する前に、Silent-Install-Hub-4.6.ps1スクリプトがBlue Prism Hub.msiファイルと同じディレクトリにあることを確認してください。そうでない場合は、以下の手順3でスクリプトへのフルパスを指定する必要があります。

1. ファイルエクスプローラーで、Blue Prism Hub.msiファイルの場所に移動します。
2. **[ファイル]**をクリックし、**[Windows PowerShellを開く]**を選択 > **管理者としてWindows PowerShellを開きます**。

[PowerShell]画面が表示されます。

3. .\Silent-Install-Hub-4.6.ps1と入力して、Enterキーを押します。
4. 警告が表示された場合は、Rと入力して1回実行します。

Hubインストーラーが実行され、インストール後にHub4.6が使用可能になります。インストールに失敗すると、PowerShellにエラーコードが表示されます。問題を見つけて修正するには、ログを確認することをお勧めします。

 インストールおよび更新中に、リアルタイムでインストーラーの場所にログファイルが作成されます。セキュリティ上の理由から、インストール後にログファイルを削除することをお勧めします。

サイレントアンインストール

 変更を加えた後は、必ずSilent-Install-Hub-4.6.ps1を保存してください。

1. PowerShellを管理者として使用し、Silent-Install-Hub-4.6.ps1ファイルの次のコード行を置き換えます。

```
$silentArgs = "/I `[filepath to Blue Prism Hub.msi]$Version\Blue Prism Hub.msi`" /qn  
/norestart /1*v `[filepath to log file]logs_hub_`$Version.log`
```

次の場合：

```
$silentArgs = "/X `[filepath to Blue Prism Hub.msi]$Version\Blue Prism Hub.msi`" /qn  
/norestart /1*v `[filepath to log file]logs_hub_uninstall_`$Version.log` "$msi_params"
```

2. ファイルエクスプローラーで、Blue Prism Hub.msiファイルの場所に移動します。
3. [ファイル]をクリックし、[Windows PowerShellを開く]を選択 > 管理者としてWindows PowerShellを開きます。

[PowerShell]画面が表示されます。

4. ".\Silent-Install-Hub-4.6.ps.1と入力し、Enterキーを押します。
5. 警告が表示された場合は、Rと入力して1回実行します。
Hubがアンインストールされます。
6. ".\Clear-Installation.ps1"と入力し、Enterキーを押します。

これでアンインストールプロセスは完了です。インストールに失敗すると、PowerShellにエラーコードが表示されます。問題を見つけて修正するには、ログを確認することをお勧めします。

 ログファイルは、セキュリティ上の理由から、インストール後に削除する必要があります。

Blue Prism Hubのサイレントインストールプロセス外でDecision APIを設定する

Decisionを最初にインストールしなかった場合に、インストーラーの外部でAPIを設定する方法については、以下の情報を参照してください。

1. メモ帳やVisual Studio CodeなどのエディターでHub appsettings.jsonを開きます。
2. Silent-install-Hub-4.6.ps1ファイルを開き、BLUE_PRISM_DECISION_URL値をコピーします。

```
Silent-Install-Hub-4.5.ps1 X
118
119 # new DECISION configs
120 if ($SkipDecision) {
121     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SKIPPED='true' "
122 }
123 else {
124     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SKIPPED='false' "
125
126     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_URL='https://localhost' "
127     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_CERTIFICATE_ID='FD8535F0A0982F68' "
128
129     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_SERVER='.' "
130     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_DATABASE_NAME='BluePrismDeci
131     $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_AUTH_MODE='s' "
```

3. BLUE_PRISM_DECISION_URL値を、Hub appsettings.jsonファイルの「DruidModelServices」セクションにある「v1」値に貼り付けます。

```
},
"BluePrismDecisionSettings": {
  "Certificate": {
    "CertificateThumbprint": "#{BluePrismDecision.CertificateThumbprint}#"
  },
  "DruidModelServices": {
    "v1": "#{BluePrismDecision.ServiceUrl}#"
  }
},
```

4. Silent-Install-Hub-4.6.ps1からBLUE_PRISM_DECISION_CERTIFICATE_ID値をコピーします。

```
# new DECISION configs
if ($SkipDecision) {
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SKIPPED='true' "
}
else {
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SKIPPED='false' "

    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_URL='https://localhost' "
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_CERTIFICATE_ID='FD8535F0A0982F68594B4A' "

    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_SERVER='.' "
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_DATABASE_NAME='BluePrismDecisionDB4' "
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_AUTH_MODE='s' "
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_USERNAME='sa' "
    $msi_params = $msi_params + "BLUE_PRISM_DECISION_SQL_PASSWORD='Pass1234Qq' "
```

5. BLUE_PRISM_DECISION_CERTIFICATE_ID値を、Hub appsettings.jsonファイルの「BluePrismDecisionSettings」セクションにある「CertificateThumbprint」値に貼り付けます。

```
},
"BluePrismDecisionSettings": {
  "Certificate": {
    "CertificateThumbprint": "#{BluePrismDecision.CertificateThumbprint}#"
  },
},
```

6. Hub appsettings.jsonファイルで、「KeyStorageDirectory」値が暗号化されていない場合は、データ保護キーへのファイルパスを更新します。この値が暗号化されている場合は、Blue Prism Protectorツールを使用して値を復号化し、ファイルパスを更新します。必要に応じて、もう一度暗号化します。

```
},
"DataProtection": {
  "KeyStorageDirectory": "#{DataProtectionKeysPath}#"
},
```

7. Hub appsettings.jsonファイルで、「ConnectionString」値が暗号化されていない場合（「BluePrismDecision」セクションで）、Blue Prism Decision接続文字列を更新します。この値が暗号化されている場合は、Blue Prism Protectorツールを使って値を復号化し、接続文字列を更新します。必要に応じて、もう一度暗号化します。

```
    },  
    "BluePrismDecision": {  
      "ConnectionName": "BluePrismDecision",  
      "ServerName": "",  
      "DatabaseName": "",  
      "ConnectionString": "#{DbConnectionString.BluePrismDecision}#",  
      "UserId": "",  
      "Password": "",  
      "Timeout": 90,  
      "AuthType": 0,  
      "CurrentPromotionEnvironments": []  
    }  
  }  
}
```

8. appsettings.jsonファイルを保存します。

これで、Hub内でDecisionを設定できます。データベースはインストール時に作成されます。